

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700282		
法人名	社会福祉法人 あおい福祉会		
事業所名	グループホーム しらかばおとふけ (1F あい)		
所在地	北海道河東郡音更町新通7丁目3番地19		
自己評価作成日	令和 3 年10月25日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 1 月 18 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail/022/kani=true&amp;JigyvoyoCd=0194700282-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail/022/kani=true&amp;JigyvoyoCd=0194700282-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和3年11月16日		

残存体力維持のため、朝は、ラジオ体操。午後には生活機能訓練やレクリエーションを実施。利用者様の意欲向上に繋がるため、スタンプカードを作成し、参加ごとにスタンプを押しスタンプを押しカードがいっぱいになったら、おやつなど景品と交換し行っている。個々のレクリエーションとしては、利用者様がしたい(ぬり絵・はり絵・編み物等)希望に沿ってできるよう支援している。コロナのため外出ができない為、天気の良い日は玄関先での外気浴を行い、歌を歌ったり、ボール遊びをするなど気分転換ができるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は十勝の中心地帯広市から車で15分ほど、国道241号線バス停より徒歩3分の場所にあり、目の前には町立老人保健福祉センターや認定こども園、屋内外のゲートボール場、音更川沿いのパークゴルフ場等が立ち並び、自然林に囲まれた静かな環境に立地している。こども園との交流や事業所行事に近隣住民が参加したり、町内会祭りに事業所で参加する等地域との相互交流がされていたが、コロナ禍の為自粛している。コロナ終息後は再開予定である。事業所では法人内、事業所内外での研修会が積極的に行われ、個々の職員に合わせた介護技術や知識の習得に取り組み、資質向上を図ることで、利用者支援に繋げている。職員は利用者の希望をくみ取り、残存能力の維持、向上を図るため、機能訓練に参加してもらえるような工夫を重ねている。利用者の心身状況に応じてテーブルやいすの配置を替えながら安全に穏やかに過ごせるよう努めている。運営推進会議参加者や利用者、家族、職員からの声を運営に反映させ、家庭的な和やかな雰囲気の中で安心して過ごしてもらえる体制づくりに法人全体で取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に会社・事業所理念を見やすいところに掲示し共有している。 今年の目標を掲げて取り組んでいる。	法人の基本理念を基に職員会議で話し合い、事業所の現状に合わせた具体的な事業所理念を作成し、事務所内に掲示している。常に職員間で確認しあい、年に一回見直しを図りながら日々のケア支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	去年・今年とコロナのため交流できていない。	町内会に加入し町内会行事や花火大会等に参加したり、事業所行事に地域住民が参加したりする等交流を深めていた。また、こども園のお遊戯会見学と相互交流を図り、日頃から理解と協力を得ていた。しかし、現在コロナ禍の為に自粛しているが、コロナ終息時には交流を再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	去年・今年とコロナのため交流できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナのため会議の開催は、行っていないが、書面開催とし、意見回答書を同封し意見の交流を図っている。	地域包括、町内会代表、民生委員、家族代表、老人クラブ代表、町内にある短大の准教授等の参加を得て年6回開催していたが、現在コロナ禍で書面開催となっている。意見や希望があった場合は運営に取り入れている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月待機者報告を行い、空き情報の問い合わせやサービス困難事例など相談に応じてもらっている。	SOSネットワークに加入し、町担当者との情報共有、協力体制に努めている。また困難なケースを相談しアドバイスをもらったり、研修の講師を依頼する等常に連携を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目標に掲げ行っている。 施錠はしていないが、人感センサーを使用し、身体拘束防止委員会でも定期的に見直しをかけている。	定期的にマニュアルに基づき拘束廃止委員会を行い、または職員を積極的に外部研修会等に参加させて情報収集を行い、内部研修等で話し合い意識の共有化を図っている。日常でも職員同士行動の確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目標を作り虐待防止に努めている。 定期的にチェックリストえお行い注意喚起を行っている。		

グループホーム しらかばおとふけ (1F あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内、社外への研修に参加し学ぶ機会を持ち支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務所幹部者とホーム管理者とで、十分時間をかけ、理解を測れるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部への連絡先も掲示している。 ご家族の面会時意見、苦情等積極的に聞くようにし、サービスの向上になるよう心がけている	家族等が来訪の時積極的に言葉をかけて対話するように努めている。またアンケートなども行い、不明な点がないように一つ一つ確認しながら返答している。またの意見等も日々の支援の中に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員の不満、意見を言える雰囲気を作るよう心がけ、出された意見は会社へ提案している。	上司や同僚に気軽に話せるよう常に職場の雰囲気作りに配慮し、種々な意見や提案等を受け職員全員で考え、出された提案は日々のケアや運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	いつでも意見を聞ける機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内、社外の研修への参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修として交流の機会を設けていたが、コロナのため行えず。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話し合い聞き取りの中で情報を得る努力をしている。本人以外ご家族の要望等も聞き取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居、契約時にご家族が困っていること不安なこと等、ご家族の気持ちを汲み取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多くの情報を得る時間をもち、病院や支援センター、社協の職員の意見を参考にし、ご家族と向き合い話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状況にあった作業を一緒に行い、話し合いの中で、何ができるか一緒に考えてみる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事も協力して頂けるような働きかけを行い、本人を交え話し合いながら本人の希望など聞き出せるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ禍のため実施できていない。	コロナ禍の為、制限の中で可能な範囲で馴染みの人との面会を行っている。入居前の友人や知人の関係性の継続維持ができるように電話や手紙など常に配慮しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の大きなトラブルに発展しないよう職員仲介に入るようにしている。レクリエーションなどを通して利用者同士がコミュニケーションがとれるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればいつでも受け入れること伝えている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でできるだけ本人の思いや意向を把握しよう心がけている。、不明の時は、ご家族の来所時、または電話で聞き取る。ケア会議で意向に合った支援法を検討している。	日々の会話や生活の様子の中から個々の意向を把握するように心掛け、声掛けしながら思いを聞いている。また家族など来訪時や電話での会話の中の情報も参考にし日常支援に反映させている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者全員の入居前の生活環境、前事業所、ご家族、本人より情報収集しファイルに記載し、職員全員が把握するよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子、心身状態の変化など記録し共有しながら対応するようにしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がよりよい生活を過ごせるように、利用者や家族の意見や希望を聞き、検討し計画作成を行っている。また、入院や体調不良時には、計画の見直しを話し合っている。	半年に1回、利用者や家族の意向を聞き取り、ケア会議で検討した内容を介護計画作成担当者がまとめ、より良い生活が過ごせるよう計画を立て家族に同意を得ている。また病気や不調時などの時は都度計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの様子。日々の中での変化など細かく個別に記録し、情報を共有し介護計画に反映させている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の状況、その時々々の要望に応じて事業所の多機能性を活かし包括センター、病院、社協などに相談しながら支援するよう実施している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの意向に合わせ必要に応じて各機関と協力しながら実施している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常勤看護師対応で定期的に、協力病院に受診し近況報告し、医師の指示に基づき健康管理を行ない、特変時は、その都度ご家族に報告している。また、提携外の病院受診に関しては、近況報告等記載し情報提供を行っている。	常に医療機関や医師と連携を密にして、また時には家族との連絡を密にし協力を得ながら利用者の健康維持をサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を確保し健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が不安にならないように、元の生活に戻れるよう早期退院に向けて病院側と相談し情報を交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と終末期に支援については指針を定め、入居時十分な説明を行っており、終末期に向けては、早い段階でご家族に相談を持ち掛け話し合いを行っている。	重度化や終末期についての指針が定められており、利用者が重度化した場合に職員の対応や迅速な行動は行うが、看取りは行っていない旨を家族に十分に説明し、また早い段階で家族と対応について話し合うなど終末期の対応について双方が納得できるように支援している	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習・社内研修等を受け、マニュアルを備え迅速に対応できるように努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員、利用者共に消防署と防災会社の協力を得て年2回の避難訓練の他、水害、複合避難訓練実施と机上訓練を行っている。また、運営推進委員会等でも地域の方の協力を得れるよう働きかけをしている。	災害訓練は年2回以上地域関係者に働きかけながら、消防署の指導協力により行っている。災害対応時職員分担図や緊急連絡網を作成し、それを基に訓練を行うなど、常に迅速な行動が行えるよう、また利用者の万全確保に心がけている。法人より停電時用として発電機も配置されている。	複合災害を想定した訓練で、昼夜問わず迅速に利用者が安全に避難できるための避難訓練を検討したり、災害対策法の机上訓練や研修を実施しながら習得していくことを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関する指針に基づき常に尊敬の気持ちを持ち、声かけ対応している。 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言葉かけ等がないように職員間で注意喚起している。	利用者の人格を尊重し、プライバシーを損なわないよう個人情報のガイドラインを遵守し、法人や事業所内での研修や職員会議、日頃の業務内で意識の共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中でご本人の思い、希望を引き出せるよう雰囲気作りなど作るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の体調や都合を優先しながら、ゆったりとした時間の中で生活を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合わせてながら何気なく服を準備し、清潔感ある身だしなみを支援する。 行事の時などは、女性は、お化粧をし、おしゃれを楽しめるよう支援する。		

グループホーム しらかばおとふけ (1F あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者さんと食事の準備、食器洗いなど職員と一緒にしている。夏には、プランターで育てたトマトの収穫も一緒に行ってます。数回ですが、出前の日があり、各自メニューの中から選び楽しんでる。	職員が作った食事の盛り付けや片付けなど利用者ができることを支援し、和やかに食事作りを行っている。プランターからの収穫物を使った季節感ある食卓となっている。人気のある出前も希望を聞きながら取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えたメニュー1日1500kcal、水分1,000mlを目標に無理せず提供。お粥、刻み、ミキサー食等、その人に合わせて食事の提供をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けでできる利用者は声掛け、できない方は、一部介助で義歯洗浄を行っている。口腔状態に応じて、定期的に、協力歯科による口腔ケアを実施している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記入し一人ひとりに合ったパッドの種類、時間パターンを把握し、なるべくトイレで排泄が行えるよう支援している。	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、身体状況に合わせた適切な支援ができるように排泄表を作成し対応している。自立排泄に向け利用者に応じた適切な排泄用品で対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時は、牛乳を提供と毎日の歩行など適度な運動を行うようにしている。合わせて、主治医による便秘薬でのコントロールを実施。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	若干、職員サイドでの入浴になってしまっているが、職員と密の会話ができる楽しいひと時となっている。ゆったりとした時間作りはできていない。	利用者の体調を把握し、入浴の声掛けしながらゆったりと気持ちの良い入浴時間を提供している。重度者にも対応できるよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の明るさ、空調を留意し、個々の希望に沿った寝具等使用している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を読み理解するよう努めている。医師の処方通りに一人ひとりの服用法に合わせ氏名・日にちを読み上げ毎回服薬の確認を行っている。処方に間違いが発生した場合は、記録し、担当Drに報告し指示を仰ぎ、薬局薬剤師にも報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝い、タオル畳、手すりの消毒など分担の仕事を決めたり、外気浴、トランプ、ボール遊びなど気分転換になるよう工夫をしている。			

グループホーム しらかばおとふけ (1F あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はできていないが、桜見学など数分ずつ近隣の短い時間のドライブに行ったり、玄関先での外気浴を行い、歌を歌ったりボール遊びを行っている。	感染予防の為日常的な外出できない中、短時間、少人数でベランダや庭先などに出て、利用者が少しでも戸外に出られる工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いのお金の管理は、施設で行っている。週に一度のパンの購入もコロナのため、自分で選ぶことは行わず、予約購入。不足の物は、職員が代行して購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に、電話をかけたり施設より手紙を出すなど意思疎通を図れるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通空間での明るさ・湿度等には配慮している。特にコロナ禍のため感染予防として、空気清浄機等使用している。季節感を感じられるようその月々の行事、写真を掲示したり、肌で感じられるよう自分たちで創った作品を飾ったり工夫をしている。	広い共有空間は大きな窓からの採光等が配慮されていて、壁には行事等の記念写真や個々の作品等も多く掲示され、心良い快適な空間の場となっている。また職員との重要なコミュニケーションの場になるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファ、畳のスペースがあり自由にテレビを観たり、お話をしたり利用者本人の意思で過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、仏壇等を置き、居心地良いようにしている。また、ご家族の写真や、本人が作った作品等飾っている。	使い慣れた品々を居室に置き、職員の助言のもと自分の作品や家族写真などを壁に貼り、居心地の良い部屋作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんのできること、得意なことに目を向け尊重し、不足の所は協力と見守りを行い、他利用者さんに不愉快を与えないよう配慮しケアのないように見守っている。		